

審議会等の議事の要旨(要点)

会議名称	立川市総合都市交通戦略協議会(書面開催)	
意見集約期間	令和3年5月25日(火)～6月11日(金)	
議題	<p>1. 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画期間の主な重点的交通戦略・施策について ・施策の進捗状況について ・西武立川駅利用者満足度調査の報告について <p>2. 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度～平成31年度の評価について ・令和2年度以降の評価指標(案)について 	
配布資料	<p>資料1:中期計画期間の主な重点的交通戦略・施策</p> <p>資料2:施策の進捗状況</p> <p>資料3:西武立川駅利用者満足度調査結果</p> <p>資料4:評価指標(平成27年度から平成31年度まで)</p> <p>資料5:評価指標(令和2年度以降)(案)</p> <p>参考資料1:立川市総合都市交通戦略協議会委員名簿</p> <p>参考資料2:立川市総合都市交通戦略協議会設置要綱</p>	
出席者	<p>[委員]</p> <p>大森宣暁会長、岡村敏之副会長、 大櫛寛之委員、谷口信夫委員、藤井彰俊委員、圓地哲文委員、 上田茂雄委員、榎本聡委員、齊原潤委員、中田龍哉委員、 吉川武士委員、新井淳一委員、早田俊介委員、藤原廣彦委員、 若林勝司委員、小林健司委員、伊藤正人委員、布施明委員</p> <p>[事務局]</p> <p>庄司康洋(交通対策課長)、加藤暁子(交通企画係長)、 一ノ瀬達郎(交通企画係)</p>	
意見集約：平成27年度～平成31年度の評価結果について		
＜委員＞	＜事務局＞	
<p>＜委員＞</p> <p>評価の欄が水色に塗られた7つの指標のうち実に6つの指標が「○達成」なのが素晴らしい。特に、1つ目の指標の「○達成」は嬉しく思う。</p>		
<p>＜委員＞</p> <p>旧庁舎周辺地区の錦町の道路が歩きやすいと感じている市民の割合及び交通安全対策に満足している市民の割合について廃止(未計測)している計画策定時の指数がかなり低いものの、その後平成27～31年度についてなぜ廃止(未計測含む)となっているのか。指数がかなり</p>	<p>＜事務局＞</p> <p>【道路課】道路が歩きやすいと感じている市民の割合及び交通安全対策に満足している市民の割合について、市民意向調査が廃止となったため廃止(未計測)となりました。道路が歩きやすいと感じている市民の割合については、市政に関するアンケートにおける市内の道路の整備状</p>	

<p>低いものの、その後平成 27～31 年度についてなぜ廃止(未計測含む)となっているのか。</p> <p>5年毎でなくても少なくとも3年くらいの間隔で計測を行い道路の利用の安全・安心を定めて達成を目指して欲しかった。道路の整備状況の中で立川駅周辺(中心市街地及び旧庁舎周辺地区)が鉄道により南北市域全域が分断されていることについて、市民からの意見聴取を追加し評価指標によって1日でも早く早期開通(立3・1・34、立3・3・30など)を目指すべきと考える。</p>	<p>況に満足している市民の割合が類似する項目と考えております。</p> <p>【交通対策課】交通安全対策に満足している市民の割合については、市政に関するアンケートに類似する項目がございませんが、交通事故発生件数を指標とすることで交通安全対策に対する一定の指標とすることができると考えております。</p> <p>【都市計画課】立川市としても1日も早い整備を目指して、事業主体である東京都にことあるごとに整備要望をしております。今後も引き続き、事業化を目指して要望してまいります。</p>
<p><委員></p> <p>立川駅に関する事項の全てにつきまして、計画策定時の目標を達成できており、良好であると判断しております。</p>	
<p><委員></p> <p>ぐるりんバスについて、大幅に目標を下回っている。収支改善策は検討しているか。</p> <p>超高齢社会の中で、ぐるりんバスの新たな展開も含め、福祉施策としての移動手段の検討を行うべきではないか。</p>	<p><事務局></p> <p>【交通対策課】ぐるりんバスについては、収支率30%を運行継続基準として、地域公共交通会議で、検討しながらルート再編を進めています。平成 28 年度に市内全域から交通不便地域を主としたルートに再編し、路線バスの補完としての位置づけを明確にしたため、乗車人数は大幅に減りましたが、収支率は改善いたしました。福祉施策としての移動手段につきましては、庁内横断的に検討をしています。</p>
<p>意見集約： 令和2年度以降の評価指標について</p>	
<p><委員></p>	<p><事務局></p>
<p><委員></p> <p>黄色で塗られた新しい指標については、これで良いと思われる。前回の反省から、すべての指標に関してその計測間隔を「毎年」と設定した点に強く賛同する。</p>	
<p><委員></p> <p>令和時代になって今後は駅周辺の開発地区を中心とした区域の整備済道路の車、自転車及び歩行者の流量を調査し、新しい時代に合った道路を安全・安心でかつ有効利用ができること</p>	<p><事務局></p> <p>【道路課】駅周辺の地域は、整備した時の基準等に基づき整備されております。</p> <p>今後、市政に関するアンケートを行う考えはありませんが、地元などの要望により、改修工事等</p>

<p>等の市民満足度調査が望ましい。</p>	<p>計画する場合には、車、自転車及び歩行者等の流量を調査して、地元と調整していきたいと考えております。</p>
<p><委員> 平成27年度～平成31年度指標の交通安全対策、駅・バス停の利便性を代用する適当な項目は「市政に関するアンケート」にはないのでしょうか。</p>	<p><事務局> 【交通対策課】駅・バス停の利便性を代用する「市政に関するアンケート」の項目としては「お住まいの地域の公共交通機関の利便性が高いと思う市民の割合」を考えております。交通安全対策については、市政に関するアンケートに類似する項目がございませんが、交通事故発生件数を指標とすることで交通安全対策に対する一定の指標とすることができると考えております。</p>
<p><委員> 多摩都市モノレールの乗車人員については、コロナ前の水準が理想ではありますが、新しい行動様式の定着が一定程度進み、水準が下がると考えられます。コロナの収束状況により、落ち着くまでは参考として、数値の変動が落ち着いた段階で目標の基準を定める検討をしていただければと考えます。</p> <p><委員> 公共交通機関各社は、「コロナ後は、コロナ前の乗客数を確保することは望めない」としている。今後5年後の目標値は、在宅ワークなどコロナによる人流の変化を前提とした値を検討すべきではないか。</p>	<p><事務局> 【交通対策課】新型コロナウイルスの影響は地域公共交通にとって、あまりにも大きいため、事務局といたしましても数値の変動がどこで落ち着くのか、計りきれないところです。よって、目標値に代わり新型コロナウイルス感染前の5年間の平均値を参考値として掲げております。目標値の設定の必要性も認識しておりますので、新型コロナウイルスの収束など、状況が変化した段階で本協議会に「目標値」を定めることについてお諮りしてまいりたいと考えております。</p>
<p>担当</p>	<p>まちづくり部交通対策課交通企画係 電話 042-523-2111(2279)</p>